

アフリカのルワンダ内戦を描いた「ホテル・ルワンダ」が公開される。先月から上映が始まった東京では毎回劇場が満席になる人気。日本での公開が遅れたが、映画ファンらの署名運動がきっかけで全国公開が決まった。運動の中心となった東京在住の水木雄太さん(26)は「つい10年ほど前にこんな悲劇があったことを知ってほしい」と語る。(長谷川千尋)

映画ファンの署名契機 内戦の悲劇 上映が実現

94年、ルワンダでは多数派のフツ族と少数派ツチ族との民族間の争いが大虐殺に発展し、80万人から100万人が犠牲になった。映画は、虐殺が広がるなか1200人の命を救ったホテルマンの実話に基づく。

94年、ルワンダでは多数派のフツ族と少数派ツチ族との民族間の争いが大虐殺に発展し、80万人から100万人が犠牲になった。映画は、虐殺が広がるなか1200人の命を救ったホテルマンの実話に基づく。

00人を超す人が虐殺を逃れて集まった。欧米諸国の介入に期待したが、救出対象となったのは外国人だけ。ポールは家族と避難民を守るため奔走する。水木さんは大虐殺があった94年に高校1年生。新聞で事実を知り、以後、記事をストックアップし

たり00年にはルワンダを訪れたりするなど興味を持ち続けた。映画が昨年のアカデミー賞主演男優賞など3部門にノミネートされたことで、日本でも公開されると思っていたが、テーマの重さや賞ノミネートによる配給権高騰などにより日本では配給

ホテル・ルワンダ 11日公開



映画「ホテル・ルワンダ」の一場面